

第1章

県民交流広場の取組事例

(地域コミュニティ・アワード出展地区の取組から)

地域づくりの
 課題と目標

私たちの課題である閉じこもりがちの独り暮らし老人や若い世代の住民が参加できるように、県民交流広場事業の交流行事ごとに声かけをし、雰囲気作りを大切にしています。

観桜会・夏まつり・文化祭・餅つき大会・給食会(独り暮らし老人)・さをり織り教室・子育て支援などの活動を実施し、多くの住民の方々の参加を願っています。



【さをり織り教室】

さをり織り教室

子どもから障害のある方や高齢者まで、地域のすべての世代の皆さんが参加できる「さをり織り教室」。織機を使って紡ぎ出される作品のすばらしさを味わってもらい、参加を通じて助け合いの心を育んでいます。

〔工程〕

縦糸の葎通し、綜統通しの工程

織り上がった布で、マフラー・ベスト・ランチョンマット・袋物を作ります。

世代間交流さわやか喫茶

明るく元気な子どもたちと高齢者がいっしょに集まって、おじいちゃん、おばあちゃんから昔の懐かしい話を聞いたり、昔遊びをしたりして楽しく過ごしています。

〔内容〕

月1回10時～12時

コーヒー、ミルクコーヒー・サンドイッチ、デザート(果物)の三品目。

他の活動に参加しない人たちも毎月楽しみにしています。



【世代間交流さわやか喫茶】

これまでの
 成果や
 今後の予定

県民交流広場の交流が広がり、今まで参加できなかった人たちも、どこで会ってもお互いが挨拶を交わすようになり、地域全体が明るくなってきたと喜んでいます。

今後も交流の場を通して、地域に広げていきたいと願っています。

拠点施設



《主な整備内容：増築》

- 多目的利用ができる活動コーナーに改修
- 調理コーナーの拡張
- 和室に物入れを設置

連絡先

岩屋ふれあいのまちづくり協議会
 TEL 078-881-4918

地域づくりの
課題と目標

丸山地区は、神戸市長田区の最北に位置し、坂道と階段の多い住宅地である。商店は少なく、遊興の施設もほとんどない地区で、丸山地域福祉センターは、地域の中心に位置し、住民の貴重な交流の場であり、子どもから高齢者まで多くの住民にいかにかセンターへ足を運んでもらい、地域の絆を深めるかが課題である。



憩いの集い

月1回センターを終日開放し、愛称を「ひだまり」として、習字・絵手紙・手芸などは講師を招いて指導していただき、主に男性向けには、囲碁、将棋・囲碁ボールを開催し、幅広く多くの方に楽しんでいただいています。

【憩いの集い】

音楽と親しもう(音降る街角)

月1回第4月曜日に、どなたでも参加できるように毎回講師を招いて、季節の歌や合わせてミュージックベル・鳴子を使って音楽を楽しんでいます。無理のない程度に、時々舞台発表の場を作っています。



【音楽と親しもう(音降る街角)】

これまでの
成果や
今後の予定

県民交流広場事業として始まった5つの事業も好評につき活動を継続していきます。上記2事業「憩いの集い」「音楽と親しもう」のほか、就学前の幼児とその保護者を対象に読み聞かせやミュージカルなどの「子育て支援」、引きこもりがちな高齢者、特に男性を対象に「料理教室」、幅広い年齢層を対象に話題の映画や夏休み中は子ども向けに「映画会」を実施しています。

今後は、より一層生き生きと暮らせる“丸山”を目指していきたいと思っています。

拠点施設



《主な整備内容：増築》

- 和室(押入れ改修、収納庫設置など)
- 活動コーナー(収納庫設置、テレビ設置のための壁補強など)
- トイレ(扉改修、オムツ取替え台設置など)

連絡先

丸山ふれあいのまちづくり協議会
TEL 078-631-2761

地域づくりの
課題と目標

上坂部地域は、生活の利便性や閑静なことから注目され、多くの方々の転入が予想されています。今、最大の課題が、地域の旧住民と新規の転入者との交流をいかに深めて、地域づくりを行うのか。また、若い世代にも、地域づくりに参加いただき、次世代に受け継いでいく人材を育てていくことです。ふるさと創生を意識し、人間味溢れる地域づくりを行うよう努力したく思っております。

ふれあい喫茶



【ふれあい喫茶】

ふれあい喫茶に、顔なじみの方々が集まるだけでは、あまりにも画一的になるため、多くの方々に参加していただけるよう、ふれあい喫茶のなかで、イベント事業を抱き合わせて開催するように企画しています。上坂部出前講座（災害対策、防犯対策、安全運転の講話、消費者トラブル被害防止講習会、救命・救急法等）をはじめ、折紙教室や歌声喫茶、大正琴の演奏等を通して地域の皆さん方との交流を深めています。



【囲碁教室】

囲碁教室

ベテランの先生を講師にお迎えして、月1回活動しています。少人数ではありますが、小学生の参加もあり、平成26年末までに、開催24回目を数えています。

花づくり活動

活動の拠点施設で花づくり活動を実施しています。土づくりは植え付け前に、馬糞、腐葉土、化成肥料を混ぜ込み、準備を行います。花の苗は、近所の緑化公園協会にお願いして、仕入れてあります。地域の拠点施設を美しく、華やかに、快適に使用できるよう努めています。



【花づくり活動】

これまでの
成果や
今後の予定

県民交流広場の活動が4年目を経過するに到っています。ようやく、広場事業が認識され始めてきました。皆さんから、「今度はどのようなイベントをするのですか」と聞いていただいたり、「今度、こんなイベントをしてほしい」、「私は、こんな事が出来ますよ」などと、声かけしていただいたりします。今後、転入者が多くなる地域柄、「ふるさと」づくりは欠かせないテーマだと考えます。

これからは、各事業を数多く開催して、住民の交流の場をもっと増やしたいと考えています。

拠点施設



上坂部集会所

《主な整備内容：改修》

- 台所を改装して、システムキッチンを設置
- 玄関からのアプローチをバリアフリー化にし、点字タイルを設置
- 主な集会室にエアコンを設置

連絡先

上坂部県民交流広場地域推進委員会
TEL / FAX 06-6493-2187

地域づくりの
課題と目標

津門地区は、12の自治会と14の各種団体・機関があり、それらの連合組織として津門社会福祉協議会を設置しています。各自治会や団体等で実施している活動、自治会と津門社協の共同事業、津門社協が実施する事業…と適切な役割分担により、長年にわたって地域福祉・住民福祉の向上を図ってきています。この形を保ち、より一層の充実化を目指していくことが目標であり、そのためには、何といっても人材の確保、特に若年層の参画が大きな課題であり、各組織とも悩んでいるところです。

“わがまち”安全パトロール事業



【ある日のパトロール】

誰でも自分たちの住んでいる町が安全で安心でき、きれいな所が良いと思っているでしょう。こういったことをより一層意識づけるとともに、少しでも向上させるため、簡単に誰もが取り組める形でのパトロールを実施しています。

定期的(概ね月1回)に各自治会ごとに区域内をパトロールし、危険場所や環境・防犯面等の点検及び美化(清掃)活動を行い住環境の向上を図り、住民福祉の充実に役立てています。

防犯協会が夜間の防犯パトロールを実施していますが、この事業は各自治会と津門社協が共同で日中に行っています。

住民交流「ふれあいもちつき大会」

津門社協では、従来夏(8月)には「ふれあい夏まつり」、秋(11月)には「まちめぐりスタンプラリー」と、地区住民が参加して楽しめる大きなイベント行事を実施していましたが、冬になると何もなくて、少し寂しいな…という感じがしていました。

そこで、1月に全住民を対象に実施できる「もちつき大会」を計画し、現在までに3回開催しています。年々参加者(児童が多い)が増え、会場(大筒市民館)が手狭になるぐらいの人気で今のところ大成功です。これからも頑張りたいと思っています。



【もちつき大会】

これまでの
成果や
今後の予定

県民交流広場事業に取り組み、「大筒市民館」の整備を実施できたことが一つ目の大きな成果です。津門地区には公民館がなく、市民館が拠点施設ですが、古くて使い勝手が悪かったのが、大幅に改善され、明るい感じになり、備品も揃って、活動しやすくなりました。二つ目は、事業活動の幅が広がったことです。従来の活動に加えて7種類の新規事業を開始し、6種類の既存事業を充実化させることが出来ました。

県民交流広場事業終了後も津門社協を中心に各自治会等とも協力し、ほぼ継続実施できるめどもあり、今後につながる成果だと考えています。

拠点施設



市立「大筒市民館」

《主な整備内容：改修》

- 和室の洋室化、トイレを男女別に整備、管理人室の移動など
- 施設備品の購入(机、椅子、大型テレビ、放送機器など)
- 活動機材の購入(パソコン等の事務機器、囲碁・将棋など)

連絡先

津門社会福祉協議会「大筒市民館内」
TEL / FAX 0798-26-3509

地域づくりの
課題と目標

三田地区にはコミセンがありません。公共施設は満杯でした。まちなかにみんなが自由に集まれる場所をつくりたい。いつでも好きなことが出来る場所がほしい。いろんな団体が交流して、活動の質をあげよう。このような課題を解決するために、和風で畑のある一軒家を県民交流広場事業の拠点施設とし、「じばやん倶楽部」と命名、多世代交流活動の実践と地域住民・諸団体への活動場所の提供を行っています。



【お花見コンサート】

文化と交流の月例イベントの開催

毎月1回、その月に相応しい行事を企画し、実施しています。2月旧正月餅つき大会、3月ひなまつり、4月お花見、5月端午の節句こいのぼり、7月七夕、8月地藏盆、9月中秋の名月等です。日本の文化、伝承を楽しみ、懐かしみながら子供たちに継承していきます。また、活動を通じて多世代交流を図っていただきます。お花見コンサートは、近くの公園の桜の下で、尺八によるコンサートを開催しました。近所の人たちも参加してもらい、三色団子を食べながら、みんなで楽しく歌いました。

定期活動と諸団体への活動場所の提供

現在、クラブ主催の活動が7種類、協賛活動を含めて6団体が定期的に活動しています。参加者を募集しての活動と例会等の活動に別れます。ふれあいカフェは2団体に協力をいただいています。不定期な利用の申し込みも増えてきました。より多くの団体の利用で交流が広がり、活動がコラボできればと願っています。折り紙教室で習った参加者による出前講座も始まりました。子育て広場は多くの親子でにぎやかです。同時に開催されているふれあいカフェ参加者との自然な交流も期待されます。



【子育てサロン】

これまでの
成果や
今後の予定

スタッフ、ボランティア、協力団体の活躍により、子育てサロン、手芸教室等の定期活動や餅つき大会等の月例イベントは順調に実施され、参加者に喜ばれています。ふれあいカフェも週5回まで増えました。また、児童、園児への配布や自治会への掲示依頼等で情報を発信しています。課題は2つ、利用者が固定し広がりが少ないこと、専従者が不在で、受付等の運営管理や利用状況を把握する情報管理等の事務局業務がしっかりしていないことです。今後は「継続は力なり」で、よい部分を延ばしながら課題の改善を図っていきます。

拠点施設



県民交流広場「じばやん倶楽部」

《主な整備内容：改修》

- 土間・板の間・身障者用トイレの設置
- 階段・台所の位置変更
- 備品の整備（テーブル、椅子、パソコンなど）

連絡先

三田地区県民交流広場地域推進委員会(三田じばやん倶楽部)
TEL/FAX 079-558-8782 メール sanda.jibayanclub@peace.ocn.jp

地域づくりの
課題と目標

私たちの地域は、元々は山や田畑だったところ。昭和 40 年代の大規模開発により、新しく生まれた街です。急激な人口増加で小学校が超マンモス校だったのも今は昔。近年、人口は減少ぎみ、小学校では空き教室が目立ち、高齢者の割合も町全体よりも高くなってしまいました。新しい街ですが、様々な地域団体が活動しています。こういった団体や住民の皆さんの力を集め、住民間、世代間での交流を進めることで、「やすらぎ」のある地域の実現を目指しています。

ユニバーサル社会をめざして



【ワークショップ】

私たちの地域は平成 24 年、県の「ユニバーサル社会づくり推進地区」となり、住民一丸で地域のバリアフリー化に取り組んでいます。これまで、みんなでワークショップを重ね、平成 26 年 5 月には「事業プラン」が完成。①身近に取り組む健康づくり、②地域における居場所づくり・生きがいづくり、③一人にさせない地域づくり、④安心して子育てできる地域づくり、⑤安全で安心して暮らせる地域づくり、⑥歩いて暮らせる地域づくり、⑦誇りが持てる地域づくりを柱に、今後 5 年間のプランを、ハード、ソフトの両面でまとめました。「すべての人たちが暮らしやすい地域」を目指し、取り組みを進めます。

日生夏祭り

私たちの地域では、毎年、日生中央駅の駅前「人の広場」で、「日生夏祭り」を開催しています。平成 26 年は 7 月 26 日(土)に開催。和太鼓やバンド演奏など地域のグループや住民の皆さんによるステージ、模擬店もたくさん出て、最後は盆踊り、3500 人の人出で賑わいました。この夏祭りでは、住民が実行委員会を組織し、会場警備も住民が行うなど、すべての住民、すべての世代が交流できる場づくりのため、地域一体となって取り組んでいます。



【日生夏祭り】

これまでの
成果や
今後の予定

県民交流広場事業で拠点を得ることができ、地域内の 4 自治会をはじめ、民生委員・児童委員、老人会、子ども会、自主防災会、防犯クラブ、PTA など様々な団体・住民が一緒になって地域の課題について考え、解決のために取り組んでいます。今後も、地域での交流の輪を広げ、自分たちの街を住みよいところにしていくため、より多くの住民に参加してもらえよう多様なプログラムを展開していきたいと考えています。

拠点施設



まち協会館

《主な整備内容：新築》

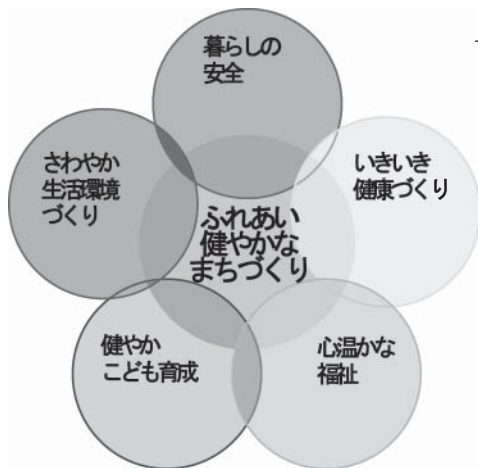
- 事務室、調理スペースをもつ多目的ホールの設置
- 備品の整備（机、椅子、パソコン、コピー機など）

連絡先

松尾台校区まちづくり協議会
TEL / FAX 072-741-5172

地域づくりの
課題と目標

明石市の鳥羽まちづくり協議会では、まちの未来像“ふれあい・健やかなまちづくり”をテーマにまちづくり3か年ビジョンを描いています。実現に向け、「安全なまちづくり」「健康づくり」「福祉」「こども育成」「生活環境」の5つの専門部会を編制し、全世帯に配布したアンケート調査結果を参考に、それぞれの部会が、学校や各種団体と協働し、創意工夫を凝らしながら、まちづくりの充実に向けて取り組んでいます。



【まちづくり5本柱】

実現に向けた取組体制・取組姿勢

まちの未来像の推進にあたり、5つの専門部会を設けて取り組んでいるところですが、部会で集中して取り組める利点のほか、部会間で切磋琢磨しあう効果も現れています。

一方、新たな事業の立ち上げや、分野を超えた取組には、プロジェクトチームを立ち上げたり、部会間で連携するなど、内容に応じた柔軟な組織体制も大切にしています。

また、取組にあたり、次の〈取組姿勢〉を掲げています。

- ①ともに知る
- ②みんなで知恵を出す
- ③みんなで取り組む
- ④みんなで成果を検証し、改善する
(以降、①～④の繰り返し)

地或みんなで取組みます！

取組例 / 災害時の要援護者避難支援

鳥羽地区では、平成21年に「要援護者支援ガイドライン」、平成26年に「災害緊急ガイド」を作成し、全自治会員に配布しました。また、これらを実践でも行えるよう、防災訓練(要援護者の病院・避難所への誘導や校区本部への報告など)を実施しています。

実施にあたっては、安全部会と福祉部会を中心に取り組み、訓練には近隣の中学生や高校生にも参加いただくことで、平日の避難支援対策も想定して取り組むことができました。



【防災訓練の様子】

これまでの
成果や
今後の予定

私たちにとって、まちは、家庭とともに私たちの明日への活力を育む心のよりどころです。

“まちづくりは地域みんなが主人公”をモットーに、地域の様々な課題を共有しながら、みんなの知恵と工夫をあわせて、温かい心が通い合い、心身とも健康で元気なふるさとを実現していく思いを込めて、未来につながるまちづくりを進めていきます。

拠点施設



鳥羽小学校コミュニティセンター

《主な整備内容》

- 鳥羽小学校区コミュニティ・センターの改修
- 備品収納物置の設置
- 備品の整備(テント、音響機器、屋外掲示板等)

連絡先

鳥羽まちづくり協議会
TEL / FAX 078-928-3767



【地域のシンボル：とばぴー】

地域づくりの 課題と目標

氷丘地区は、JR 加古川駅の南北部に位置し、利便性も良いことから都市化、人口増加が進んでいます。一方、地域の各種団体では後継者が不足しており、新旧地域住民の交流と地域活動の後継者育成が課題となっています。

そこで、氷丘地区県民交流広場では、**住民同士のふれあい・つながり**を深める事業に取り組み、地域の一員としての自覚を持つ住民を一人でも増やし、地域活動への参加者・担い手を増やしていくことを目標としています。

ふれあい・つながる活動①「いきいきサロン」

いきいきサロンでは、いきいきと健やかにすごせるように、健康チェックや健康体操、音楽療法の体験から折り紙折り、ソルトアート、子どもたちとの七夕まつりなど、幅広い取り組みが特徴で、毎月楽しみにされる声もあがっています。



【折り紙折り】

ふれあい・つながる活動②「カラオケサロン」

カラオケサロンでは、“みんなで歌おう・カラオケ友達づくり”と称して、懐かしいヒットソングや歌合戦を交えながら歌います。おなかから声を出すと気分も爽快で、自然と笑顔がこぼれます。



【健康体操】



【カラオケサロン】

ふれあい・つながる活動③「ふれあい喫茶」

ふれあい喫茶は、月に一度気軽に集い、コーヒー等(※)を飲みながら、自由に話をできる場です。情報交換の場となっています。(※ うどんセット、カレー、ぜんざいもあります)

ふれあい・つながる活動④「パソコンサロン」

パソコンサロンでは、年賀状やエクセルを活用したチラシの作成など、参加者の希望に応じた操作を設定し、学んでいます。講師の丁寧な指導ももちろんですが、参加者同士も助け合いながら楽しく学んでいます。



【パソコンサロン】

これまでの 成果や 今後の予定

氷丘地区では、上記活動のほか、夏祭り、運動会、餅つき大会等、世代間交流を意識した活動も実施しています。なかでも、挨拶運動では、スローガン「挨拶で 深まる絆 氷丘の郷」を掲げ、地区内各所にのぼり旗の掲示を協力いただきながら、地域一丸となり取り組んでいます。

これからも、**ふれあい・つながるまち氷丘**を目指して、地域みんなで手を取り合い、つながりの輪を広げながら取り組んでいきます。

拠点施設



平野公民館

《主な整備内容：改修》

- 玄関及びトイレのバリアフリー化
- 和室及び土間の洋室化
- 備品の整備（パソコン、机、椅子等）

連絡先

氷丘地区県民交流広場協議会
TEL 079-423-3888



地域づくりの
課題と目標

【現状と課題】

- ・ 静かで緑豊かな農村地域で、人口の減少傾向にあり高齢化率が高い。
- ・ 交通手段は自家用自動車の依存度が高く、高齢者などの交通弱者には活動時間、範囲が制限される。
- ・ 三草山など源平合戦跡などの歴史遺産、やしる国際学習塾などの文化施設などがある。
- ・ 地域の活動は、これまで集落単位が主体であったが、婦人会の解散、老人会の活動縮小、消防団員の不足など地域活動は低下している。
- ・ 県民交流広場事業を契機として上福田地区全体としての行事の展開 → 住民の交流を促進 → 地域の活性化 → 地域を見直し、地域間世代間交流の促進など活動が定着してきている。

【目標】 人材を発掘と組織改革、資金源の確保などの活動基盤の強化整備と、地域間、世代間の交流の推進と昼間人口の増加に結びつく交流事業を進め、新たな地域力を創造する。



【三草ふれあい喫茶】

三草ふれあい喫茶と作品展

毎月第2・4水曜日に開店。コーヒー、紅茶、手作りケーキを提供。集落ごとの交代でボランティアでサービスしている。年7回は三草保育園児の「ふれあいあそびうた」を楽しみ、たくさんの保護者などで賑わう。平均来店者数は約40名あまりで満席状態になっている。交流の場として定着している。

また、テーブルには四季折々の卓上花や壁面には地域住民や児童生徒の作品を展示し、発表の場を提供している。

地域間・世代間交流、防災・防犯の取組み

「わたしの村の自慢マップ」の作成とそれを活用してワクワク探検を実施し、地域資産の見直しと地域間交流を楽しんでいる。

児童生徒の減少に伴い、これまでの小学校運動会を地域のふれあいの場として「地域ふれあい運動会」として実施。グラウンドゴルフ大会、地域内にあるゴルフ場でのゴルフ大会、寄せ植え教室、布草履教室、フラワーアレンジメント教室などの文化活動には多くの女性が参加し交流している。防災では、防災センターでの体験学習、初期消火訓練、防犯講演などを実施。



【ふれあい運動会】



【交流三草山登山】

「海のまち・山のまち」交流

東経135号線つながりを縁に、明石市江井島コミュニティ推進協議会と「海のまち・山のまち」交流事業を進めている。源平合戦の史跡である三草山登山、緑豊かな山間や海に近いコースでのグラウンドゴルフ大会では両地域から多くの参加者で交流を図っている。江井島スポーツフェスティバルでの模擬店では「三草の巻き寿司」が好評で、次年度は「三草茶うどん」も販売予定。年々交流が深まり、昼間人口の増加につなげたい。

これまでの
成果や
今後の予定

- ・ コミュニティ応援隊CATの支援をえて、ワークショップで地域の声を集約しスタート。
- ・ 区長会、各種団体、ワークショップ参加者などが中心に活動している。
- ・ 5つの柱 ①史跡等マップづくりと住民交流 ②都市と農村の交流 ③防災と防犯活動 ④世代間交流等イベントの実施 ⑤ふれあい喫茶を実施。従来の集落単位での地域活動が小学校区での活動と場がひろがり、地域に根付いてきている。
- ・ 3年前からは加東市が行っていた敬老会を、地域で実施し、気配りに感謝されている。
- ・ 加東市、地元区長会の支援を得て活動を続ける。組織、人材の発掘、女性の活躍、交代を検討している。

拠点施設



《主な整備内容：増築》

- 建物：軽量鉄骨造平家建 床面積 79.80 m² ・物置
- 備品等：机、椅子、ホワイトボード、書棚、ロッカー、食器棚
- 喫茶用具一式 プリンター、プロジェクター

連絡先

三草ふれあい広場

事務局担当(三村) 090-2287-8173

地域づくりの 課題と目標

野間谷地区は小学校統廃合が決定するほど少子高齢化が深刻な地域です。老人会・婦人会・子供会等は組織化されているが少人数での活動に苦慮している。青年層や子育て層は組織も交流の場も無い状況でした。八千代区を中心に位置する八千代プラザを拠点にし、小学校・グラウンド等を活動場所として、「敬老の日提唱の地」であることから多世代間交流活動を通して、敬う気持ち、絆、その精神の大切さを次世代に受け継いでいくことで元気な地域づくりへとつなげていくことを目指しています。



【お祭りでお茶席】

季節行事(春は地域の若いリーダーに期待・夏は精神の大切さと楽しさと・・・)

春は地域を拠点に活動している若者グループによるイベントを交流広場事業で開催しました。多くの反響があり、若いリーダーを期待するとともに交流広場事業の広がりを感じました。

夏は精神の大切さを育てる思い出づくり、七夕祭り等で、短冊作りやゲーム大会などで楽しさを味わい、お茶席ではお茶を振る舞う児童は茶道未経験者であり、「お茶碗の持ち方や正しい姿勢」などの指導を受けて臨んでいます。その姿や気持ちが次世代へと受け継がれていきます。

季節行事(秋は敬老会や多世代でスポーツ・冬は昔の遊びやお餅つき)

秋は「敬老の日発祥の地」として、手作りのうちわや敬老のうたなどを高齢者の方たちと一緒に楽しむことで敬う気持ちが育まれます。多世代でできるグラウンドゴルフ大会や多世代間で対戦する同級生対抗ソフトボール大会で懐かしさや楽しさを味わいます。

冬は小学校でふれあいお餅つきやひな祭りの甘酒で暖まり、昔ながらを味わいます。また、竹馬・コマ回し・羽根つき・けん玉などでおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に遊びながらおもしろさを教わりながら、昔からある季節行事で交流を楽しんでいます。



【みんなで昔の遊び】

これまでの 成果や 今後の予定

県民交流広場が最終年度を迎え、「今後も交流広場の活動を続けてほしい」との声が多く聞かれました。培ってきた各種団体間の交流や意思統一した課題が解決できたと考えられます。また、高齢者・婦人層・子育て世代・青少年が交流することで、地域の活性化が図られ、交流の広がりを感じます。

今後は地域の若いリーダーやスタッフを育てることが、交流活動の継続と「元気な地域づくり」へとつながると考えています。

拠点施設



多可町立八千代プラザ

《主な整備内容：増築》

- 八千代プラザ改修工事(住民コミュニティの中心として多世代サロン等や気軽に使えるオープンスペース交流広場を整備)
- 備品の整備(テーブル、丸椅子、ガスオープンなど)

連絡先

八千代交流広場推進協議会

TEL / FAX 0795-37-0250 / 0795-37-1993

地域づくりの 課題と目標

交流広場事業の基地は、「あぼしまち交流館」です。事業の柱のひとつは、その施設を拠点として、交流と情報発信をテーマに他地域からの来訪も視野に入れた「朝市」の開催です。「網干」「揖保川」をキーワードに地元の新鮮な農産物や海産物、加工品を商品として扱ってきましたが、昨年度あたりから生産者の高齢化による朝市からの撤退者が目立ってきました。何とかそれを克服して、道の駅に負けないくらいの販売力を持って、名実ともに、地域づくりの柱にしたいと考えています。

あぼしまち交流館 あぼしまち朝市(土曜朝市)

昔から網干には農水産資源が豊富で、農産物としては、トマト、ほうれん草、網干メロンなど、海産物としては、海苔、牡蠣、アサリ、アナゴなどを販売しています。あぼしまち朝市の開催によって、地元の生産者の方々の活性化を図り、「網干」という名前を知って頂くことにもつながるとの考えから、毎週土曜日に開催してはや6年が経ちました。

少しずつですが、網干以外からの来訪も増えてきました。これらの事業をもとに2年前から、地元の漁協、姫路市、坊勢漁協と連携して姫路とれとれ市「網干かき祭り」を毎年2月に開催して、来場者数が2年で倍に増えました。



【あぼしまち朝市】

キッズフェスティバル(子ども向け体験型イベント)

平成22年から、改良しながら年2回、キッズフェスティバルを開催しています。他施設で開催している人気のあるメニューを取り入れたり、逆に木工細工やペットボトルキャップを利用したマグネット作りなど、ここで人気が出て他施設でアレンジして文化教室となった例もあります。

これからは、見たり、買ったりするだけではなく、参加して体験するという事業を数多く手掛けていきたいと思っています。



【キッズフェスティバル】

これまでの 成果や 今後の予定

平成20年度に採択され、すでに6年が経ちました。準備期間も含めて最初の頃は、本当に手探り状態で思いつくままに物事に当たって行って、かなり回りくどい、効率の悪い方法でやっていたような思い出があります。

今、やっと施設の認知度も上がってきて、かなり動きやすくなりました。最初に5年後も見据えて、実施団体としてNPO法人あぼしまちコミュニケーションを立ち上げていましたので、今後は、交流広場で培った知識をもとにして、住民、各種団体、企業、行政と自治会との間に立って、いわゆるコーディネーターとしての立場・役割を持って、それぞれと接していきたいと思っています。

拠点施設



あぼしまち交流館

《主な整備内容：増築》

- 館内の備品関係一式
- 廻船問屋風の下屋工事、駐車場のアスファルト工事

連絡先

あぼしまち交流館(NPO法人あぼしまちコミュニケーション)
TEL /079-255-8001 FAX /079-255-6546

地域づくりの
課題と目標

県民交流広場では、町民が一体となって取り組めるように活動を行っていますが、人口(10,400人)に対して施設が狭いこと、高齢者や幼児対象の事業に偏りがちであること等が課題として挙げられます。今後、参加者を若年層にまで広げていくには、彼らが興味を持てる、例えば屋外活動等を通じて「コミュニティ活動は高齢者だけのものではない」と意識改革を図る必要性があると思われます。現状は、リーダーも高齢化しており、まず若いリーダーを育てて活性化を図る必要があると考えています。



【史跡めぐりウォーキング】

【史跡めぐりウォーキング】世代間交流

昨年度は、黒田官兵衛にあやかって御国野校区にある官兵衛の祖父・母、そして妻鹿校区にある父の廟所と妻鹿城跡の見学をしました。こんな近くに史跡があったことに皆さんがびっくりされ、大変好評でした。

今年度は、加西市の古法華自然公園へ幼児から高齢者(最高83歳)までの方々が参加され、ゆっくり歩いて世代間交流ができました。天気も良く気軽に誰とでもお話ができ、交通量も少なく花見ものんびりとすることができました。

【ふれあいお茶席】地域のきずな

当活動の目的は、世代間交流はもちろんのこと、子どもの文化意識の向上を狙い、年3回、佐藤宗久先生のご指導のもと実施しています。

老人ホームの入居者や地域の方々を招待し、小学校PTAのママさんにも手伝っていただきながら、小中学生が中心となってお点前を披露しています。

オーバーに言えば「日本文化」を後世に伝えるということにもなります。お抹茶をいただいた後は、参加者の皆さんに、ゆったり談笑タイムを楽しんでもらっています。



【ふれあいお茶席】

これまでの
成果や
今後の予定

当地域では2箇所「ふれあい喫茶+野菜朝市」(月1回)を開催しており、150名を超える人達が集い、老若男女・子どもたちが各々語り合いコミュニケーションを図っています。1箇所は開店以来10年が経過しますが、県民交流広場が立ち上がってからはより一層にぎやかになり、地域住民の憩いの場となっています。

ボランティアスタッフ約15名が前日より集い、種々の準備に取り掛かり、コーヒー&パンのみならず喫茶店顔負けのケーキを焼いたりデザートを作ったりと、スタッフ自身が楽しんで活動しています。

ここに出てくる野菜や根菜類、果実は地産地消よろしく、スタッフが丹精込めて育てた物が使用されています。今後も長期にわたり継続して頂けるものと思っております。

拠点施設



《主な整備内容：増築》

- 地域所有地に平屋建(約51㎡)を新築
- 備品の購入(パソコン、プリンター、プロジェクター、スクリーン等)

連絡先

系引コミュニティセンター(いとひき交流館)

TEL / FAX 079-245-0049

地域づくりの
課題と目標

当地区は7自治会で構成されており、少子高齢化が進み三世同居家族が減少傾向にある。また、高度情報化や社会情勢の著しい変化を背景に、住民の連携意識が希薄化し、地域に根づいた人間関係も薄れつつある。こうした中で人と人との心のふれあいを大切に、地域住民が共に助け合い、より充実した地域コミュニティを実現するため、世代間交流のためのふれあい活動・地域住民の安全安心・都市住民との交流をテーマに様々な取り組みを一丸となって進めていきたいと考えている。



【スキー教室】



【ソフトボール大会優勝】

スポーツイベント

当地区は、少子化により小学校内で対戦をするスポーツが出来ない状況になった。こうした中、保護者や地域住民あがてのスポーツの楽しさを共感することにより、運動スキルの向上を目指した。その結果、市の大会で地元小学生チームが優勝するなど、子どもたちの励みにもなった。冬は雪に覆われる地域であるため、テクニカルなスキーのスキルも地域の皆様の指導により向上した。

交流事業

戦後針葉樹の植林により山々の形態が変化し、その結果、諸動物が民家にまで出没することとなった。

こうした中、都市住民との交流で、広葉樹を植栽することにより、獣害を減らす取り組みを行っている。また、30年以上続く国際交流では、オーストラリア、ブリスバンのアイアツイド小学校との親睦を地域あげて行っている。



【オーストラリア国際交流】



【広葉樹の森づくり事業】



【チャンチャコチャン】



【川そそ盆踊り】

伝統芸の継承事業

川そそ祭りでは、20年ほど前から途絶えた盆踊りも本事業により地域の皆さんの協力で復活し、地区内外から多くの人たちが訪れて賑わう事となった。また、チャンチャコチャン祭りは、一説によると、鎌倉時代から継承されてきた踊りで、踊り手が少なくなった今でも、伝統文化として受け継がれている。

これまでの
成果や
今後の予定

県民交流広場事業の取り組みで、各種団体が行ってきた活動が地域を越えた連携に変わりつつある。特に少子化が進む校区として、スポーツ関係では保護者以外の大人も参加し、様々な練習が出来たことにより、地元小学生チームが市内の大会で優勝することが出来た。また、広葉樹の森づくり事業のように地域枠を越えて都市住民による植栽活動や、30年以上も続くオーストラリアのアイアツイド小学校との国際交流は地域あげての取り組みといえる。更に、伝統芸として継承してきた「チャンチャコチャン」や「川そそ祭り」は、途絶えていた盆踊りの復活に大きく寄与した。26年度をもって野原小学校は閉校となるが、県民交流広場事業は継続していきたい。

拠点施設



原公民館

《主な整備内容：改修》

- 床の張替え、施設（玄関・階段）のバリアフリー化
- 断熱効果の高いペアガラス、LED電球の設置
- 備品の整備（発電機、事務用品、机など）

連絡先

のほらコミュニティ推進委員会（幸福）
TEL 080-1420-7352 FAX 0790-75-2096

地域づくりの 課題と目標

自分たちの地域は自分たちで創り育てていくことを基本に、人の輪づくり、安全・安心な地域づくり、地域の力を育むコミュニティの場づくりとその仕組み作りに向けて、ゆうあいの郷里づくりを目指して活動しています。私たちの地域は、高齢化率が46パーセントで、食糧品店等の店は一店もなく、週一回移動販売の方に来ていただいているところです。住民相互の交流事業として、体育祭、納涼祭、三世代交流(しめ縄作り)などを行いつつ、何か新しい地域おこしが出来ないかと考えています。



【和紙はがきすき】

三椏和紙づくり

石井地域の住民は、鹿の被害が多く困っています。このような中、ミツマタ(三椏)は被害がないので、三椏を原料とした和紙を作り、販売をすれば地域おこしの一助となるのではないかと、平成20年度から5年間「県民交流広場事業」の助成を受け、協議会内の指導者育成のための講習会の実施や地域内の人々による「紙すき体験教室」の開催など、和紙販売の実現に向けて取り組んでいます。毎年冬期になると「石井三椏和紙」づくりの準備をします。準備とは、山から「三椏」を切り出して蒸す、蒸した「三椏」を皮と木に分ける、皮の表皮を取り除く、これを乾燥させ1年間使用する量を確認します。

また、冬に紙をすくと良質の紙が出来るとも言われており、この時点で必要な数量があればすきます。毎年、利神小学校において「紙すき体験教室」を開催するなど、他地域のイベントにも積極的に参加しています。

しめ縄づくり

三世代交流として、毎年12月にしめ縄づくりを実施しています。高年クラブが講師となり、親子でしめ縄作りを体験。子どもたちは年々上手に縄がなえるようになっていきます。地元に伝わる伝統文化を、後世に伝えていきたいと考えています。

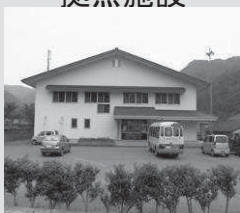


これまでの 成果や 今後の予定

県民交流広場事業では、地域住民の相互の交流として、ふれあい球技大会、ふれあい納涼祭、ふれあい体育祭を開催しています。遠くは8km離れた地域からの参加もあり「元気だった」「あんたも元気だった」の声が飛び交うことが多々あり、地域住民の交流の場として、楽しいひとときを過ごしています。

この他、今後「石井三椏和紙」の普及とほかに何か地域おこしとなるものを模索していきたいと考えています。

拠点施設



町立石井体育館

《主な整備内容：備品購入のみ》

○備品の整備(ポータブルランプセット、紙すき加工セット、冷蔵庫、掃除機、ビデオカメラなど)

連絡先

石井地域づくり協議会
TEL / FAX 0790-85-0155

地域づくりの
課題と目標

豊岡市の中心部に位置する八条地区は、空港や国道が通る交通の要所で、但馬文教府、警察署、消防署等の公共的施設が多く、近年、住宅開発も進み人口が増えている地域です。一方、旧市街では少子高齢化、核家族化が進み、住民間のコミュニティの希薄化が懸念されています。今後は、地域に残る村文化を通して、新旧住民や、世代間・地区間交流を図りながら、住民同士の絆を深め、元気で活力のある住みよい地域を目指していきます。



【“宝物”探し「八条の玉手箱」】

次代につなぐ“宝物”探し「八条の玉手箱」

八条地区に伝わる昔話や伝統・文化を見つめ直し、ふるさとに愛着を持ってもらう取組として「八条の玉手箱」を地域全体で進めています。まず、9地区の協力を得て、「ふるさと紹介パネル」を制作してもらい、公民館内で常設展示しています。平成26年度は、小学3年生の子どもたちが現地に行き、高齢者から直接学んだことを手作りマップにし、その成果を地域住民が集う「八条ふるさとまつり」や「地域コミュニティ・アワード」の舞台上で発表しました。地域の“宝物”を通して、世代間、地区間の交流が一層深まることを期待しています。

八条ふるさとまつり“芸能発表会”

毎年“八条ふるさとまつり”を開催しています。特に3年に一度行われる「芸能発表会」は、9地区全てが出し物を考え、本番に向けて日々練習を重ねます。平成26年度は百年後の伝統芸能を目指そうと、大人と子どもが取り組む「妙楽寺区獅子舞」をはじめ、よさこい、ダンスや安来節など工夫を凝らした楽しい催しが盛りだくさんでした。新しい住民が増える中、地域の行事や伝統・文化を通して、住民の絆がさらに深まっていくことを願っています。



【妙楽寺区獅子舞】

これまでの
成果や
今後の予定

平成26年度は、青空公民館から待望の現施設が完成し、ちょうど25周年目となる節目の年でした。これまで数々の行事やイベントを通して、地域づくりに取り組んできましたが、中でも県民交流広場事業を機に始めた「八条の玉手箱」は5年目となり、子ども達の“ふるさと”への愛着を深めるとともに、地区間のつながりを一層強くするものとして大きな成果があったのではないかと思います。旧市街における少子高齢化、核家族化などによるコミュニティの希薄化が懸念されますが、地域全体で支え、元気で活力のある住みよい地域づくりを目指します。

拠点施設



八条地区公民館

《主な整備内容：改修》

- ロビーをギャラリー・多目的ホールに改修
- 調理室の改修や施設内のバリアフリー化など
- 備品の整備（テーブル・液晶テレビなど）

連絡先

八条区長会

TEL / FAX 0796-24-1164 (八条地区公民館)

地域づくりの
課題と目標

日本海に面する柴山地区は、日本有数の指定避難港である柴山湾を取り囲むように浦上、上計、沖浦の3集落から形成されており、世界ジオパーク・山陰海岸の一角にあります。海岸線はリアス式の変化に富んだ美しい景観を保ち、湾内は穏やかで海水浴、海洋スポーツや海釣りなど、一年を通して多くの客が訪れています。

少子高齢化が懸念されていますが、地域の宝である海の景観美、北前船の寄港、沖浦三番叟などの歴史・伝統芸能など、地域の魅力を住民一人一人が再認識し、「ふるさと柴山」への愛着を育み、深めていく取組を進めていきます。



【アドベンチャー柴山】

アドベンチャー柴山(ふるさとおもしろ塾)

夏休みに実施する「アドベンチャー柴山」は、小学6年生を対象に26年前から実施しています。柴山湾にある洞窟探検などを経て、自力でカヌーを漕ぎ、町重要文化財「黄金(こがね)の松」を目指しながら、昼食用の貝採り、飯ごう炊さん、飛び込み体験や帰路の遠泳などを楽しみます。

子どもたちに潜在する好奇心や冒険心を呼び起こし、夏休みの良き思い出とともに、この体験を通して、地域の素晴らしさを再発見し、ふるさとへの愛着を深めてもらえることを願っています。

地域づくり人づくり・柴山地区防災訓練

柴山地区は、山が海に迫る地形で、至る所が「土砂災害警戒区域」に指定されており、かつて道路が土砂でふさがれ、孤立したことがあります。住民はもとより、観光客のためにもハザードマップが必要ということから、住民の手による「土砂災害ハザードマップ」を作り、これを活用した避難訓練や、地元漁業・観光業関係者らと連携し、漁船を使った防災訓練も実施しました。情報伝達手段などの課題もありますが、常日頃から住民自らが備え、考え、行動することの大切さを共有していきたいと思っています。



【漁船による防災訓練】

これまでの
成果や
今後の予定

運動会や文化祭、グラウンドゴルフ大会などの世代間交流事業、歴史を学ぶ会や伝統行事などを重点に実施していますが、年々参加者が増えるなど、地域活動が活発になり、地域の絆も深まってきました。

今後、スタッフや地域リーダーなど後継者の育成が課題となりますが、先輩諸氏とのつながりを持つ中で、次世代に良い方向に進んでいくのではと思っています。

拠点施設



柴山地区公民館

《主な整備内容：改修》

- 会議室を図書室兼県民交流広場スペースに改修
- 玄関ホールにサロンスペースを設置、トイレの改修など
- 備品の整備(テーブル、椅子、プロジェクターなど)

連絡先

柴山地区県民交流広場事業推進委員会
TEL / FAX 0796-37-0821 (柴山地区公民館)

地域づくりの
課題と目標

後川は、少子・高齢化が進み、高齢化率が40%にも達する過疎の地域となりつつあります。この地域を活性化することが私たちに課せられた使命であると考えます。

しかし、この地域は歴史と自然が豊かであり、多くの可能性を有しています。

この地域の新しい時代を切り拓き、未来ある地域を実現するために、「後川の産業振興」「子どもも、高齢者も安心して暮らせる安心安全の地域づくり」「各種団体の連携で地域の絆を深め、地域の活性化を目指す」を柱として戦略的地域づくりを進めていくこととしています。



【ふるさと後川夏祭り】

地域の絆と活性化のための事業（ふるさと後川夏祭り）

地域内の各種団体をはじめ、各自治会がそれぞれ屋台を出店し、地域一体となって事業を行っています。このイベントには子どもからお年寄りまで参加し、後川出身の人たちも「ふるさと」を思い帰郷されています。

年を追って、新たな試みを見いだすことが必要であり、今後も期待されるようにしていきたいと思っています。

地域の絆と活性化のための事業（後川春来まつり）

後川郷づくり協議会ふれあい部会が中心となり後川小学校が統合のため、閉鎖された思い出の小学校で旧後川小学校の設立記念日である「2月22日」に開催し、いつまでも後川住民（後川出身者）の心の記念日となるように開催しています。

多彩なゲストを迎えるとともに各種団体が屋台や催し物を出店するなど「春を迎える」ことの気持ちを創り出しています。



【後川春来まつり】

これまでの
成果や
今後の予定

後川のみんが笑顔で安心して暮らせるようにと地域の「絆」を深めるための事業を展開することによって、これらの事業は地域に定着してきました。今後も、新鮮な風を取り入れ、継続していかなければならないと思っています。

地域づくりの担い手である私たちが、この後川地域に「誇り」と「愛着」を抱き、共に力を合わせ、地域の豊富な資源を資産として磨き、新たな観点、発想、しくみを取り入れながら活用し、お互いに連携・共有していくこととしています。

拠点施設



後川郷づくり活動センター

《主な整備内容：新築》

- 市立後川文化センターの敷地内に木造平屋建（約47㎡）を新築、会議室・事務室、湯沸し室、トイレを整備
- 備品の整備（パソコン、カラー複合機、輪転機、音響機器など）

連絡先

後川郷づくり協議会（事務局 倉）
TEL / FAX 079-556-2557

地域づくりの
課題と目標

新井地区は丹波市の中央部に近く、4 km 圏内に商業施設、工業団地、病院等があります。生活に便利な地域で、公営住宅・アパート・個人住宅が増え、人口は微増しています。基幹産業は水稻を中心に丹波特産の山の芋・黒大豆・小豆等が生産されていますが、兼業農家がほとんどで年々その担い手が少なくなっています。また、近年は里山に手が入らず山は荒れています。そこで「住んでよかった心豊かな新井の郷」をめざし、「安全・安心」「絆」「笑顔」ある地域づくりに取り組んでいます。

都市との相互交流事業の展開

平成 24 年度から「神戸市灘区岩屋地区」と交流事業を展開しています。遊休農地を活用した丹波黒豆の種まきや田植えを体験し、秋にはこれらの収穫を通じて作物を育て収穫する楽しみを分かち合い、農業への理解を得ています。農業体験以外にも地元発祥の「囲碁ボール」や「ホタルの観賞会」などで交流を深めています。また、新井地区の子どもたちが岩屋地区を訪ね、震災からの復興の様子や震災への備えの大切さを学びました。相互の交流を継続しこれまで以上の強い結びつきを実現していきます。



【田植え体験】

子どもによって伝えられる新井の歴史

新井小学校と連携し地域の歴史を子どもに伝えています。今年度は6年生がフィールドワークを通して、先人たちが安定して作物を作り続けるための「水とのたたかい」の苦勞と知恵を学びました。学びを学校に持ち帰り、先人の努力・協力・話し合いの大切さと事業を成し遂げた喜びを演劇と運動会の組体操にして表現し、全校生や地域住民に伝えました。生徒の学びの深さや表現力に感動し、未来を担う「新井っ子」は一段と成長していました。来年度はどんな「新井塾」になるか楽しみです。



【新井塾】

これまでの
成果や
今後の予定

これまで環境整備・子どもの健全育成・健康づくり・夏祭り・文化祭等の事業を行ってきましたが、平成 22 年度に県民交流広場事業の助成を受け、地域の農産物を使って交流事業を行うこととなりました。拠点施設と農機具等の備品を整え、収穫した作物は都市との交流事業や収穫感謝祭(新たなイベント)の賄い材料とするほか、黒豆は加工してポン菓子として販売するようにもなり活動は大きく広がりました。人の交流も事業を通して着実に築かれてきています。今後は社会の変化にも目を向け、「住み良い地域での暮らし」の視点から事業を見直そうと思います。

拠点施設



新井の郷交流館

《主な整備内容：新築》

- 地域所有地に鉄骨平屋建(約 41 m²)を新築、交流室、会議室を整備。鉄骨平屋建(約 38 m²)作業場兼倉庫を新築。
- 備品の整備(管理機、草刈機、ロッカーなど)

連絡先

新井自治協議会

TEL 0795-72-2818 FAX 0795-73-3230

地域づくりの
課題と目標

この地区での重要課題は住民の高齢化、少子化、農業後継者問題、未婚者の増、と問題点が山積です。高齢化率は複列地区で平成 26 年現在 25.2%、倭文地区で 30.8%です。当地区は農業主体で三毛作をしているところが結構多く老人が耕作し生計を立てている（つまり老人が農業を支えている）。農業収入が労働にあった安定した収入であれば農業後継者問題、未婚者の増加という問題点が軽減すると思います。また、この地域も非農家が徐々に増加しているので地域の目標としては、両者の絆を大切にし、協調性のある、お互いwin・winの関係でイベントを進めたい。



【歴史講演】

郷土を知ろう(歴史講演)

当地域は歴史、風土資産が豊富であります。歴史をふりかえり、現在の道しるべとして活用したいと考えています。講師には在住の諸先輩、大学教授をお迎えしての講演を行いました。演題として歴史に学ぶ農業。福島原発を正しく理解するため。国生み神話と複列・倭文地域の歴史。島内医療の現状とこれから。世界の人口問題。近現代の農業・TPP。淡路廃帝淳仁天皇像の再検討。南海トラフ地震への備え等と昔から現代の諸問題を題材に講演いただきました。

夏まつり

当地域も平成23年から、11地区の自治会長をメインに各地区の親睦、交流を図る意図で子どもの夏休み時期に祭りを行っています。淡路三原高等学校、三原中学校の協力を得て演奏会、ダンス、複列・倭文地区保育所園児の竹太鼓、また、カラオケあり、ビンゴゲーム、餅まき等種々な催し物を行っています。餅まきには大きな歓声が聞こえます。



【夏まつり】

これまでの
成果や
今後の予定

県民交流広場を行って早5年経過し、いろいろなイベントを行い、先日、11地区全戸にアンケートを実施しました。回収率が約72%であり県民交流広場事業の関心が高かったと思います。この事業をプロローグとし、このノウハウを生かし、南あわじ市が行う交流センター事業に移行したいと考えています。

拠点施設



複列公民館

《主な整備内容：改修》

- 図書機能を備えたふれあいサロン
- 大広間、和室、便所に手すりを設置しバリアフリー化
- 備品の整備（パソコン、プロジェクター、太鼓など）

連絡先

おのころふれあい広場推進委員会
TEL / FAX 0799-42-2710

地域づくりの
課題と目標

地域の最大の課題は進む高齢化（高齢化率約 40%）の問題です。このままでは農業後継者の確保もできず地域の過疎化が進むばかりです。

美しい景観が広がる棚田も、高齢化とともに徐々に農業生産を行うことが不可能になりつつあり、地域の生き残りをかけた基盤整備が必要になってきています。高齢化が進む中で住民が地域に自信を持っていないなどの問題も浮き彫りになり、地域コミュニティを守り、交流人口を増やすなどの取り組みが必要になってきています。

都市部の方々との交流（そばカフェ生田村の運営）



【そばカフェ生田村】

生田地区では平成 19 年から農業関係の事業として地域をあげてそば栽培に取り組んでおり、都市部の方々と交流するために地域イベントとして「そば花まつり」を開催してきました。

交流広場の整備では、この活動を発展させるため、風味が良いと好評をいただいている地元産のそばを提供する施設、「そばカフェ生田村」を併設しています。

そばの奥深さも知らなかった素人集団の挑戦で、準備から大変な日々が続きましたが、開店から 4 年余り、年間 1 万人近い人々が訪れ、淡路島の人気スポットの一つとなっています。

地域になくてはならない、ふれあい喫茶

「そばカフェ生田村」は土日祝日営業、その合間の水曜日・土曜日は地域の人たちのために「生田の日」として「ふれあい喫茶」が開かれます。

この日には、老人会等が中心になって、広場で 100 歳体操や隣接施設でグラウンドゴルフの練習が行われます。集まってきた皆さんほぼ全員が行事終了後「そばカフェ生田村」に集まってダベリング。コミュニティの大切な場になっています。住民 400 人に対して利用者は年間延べ 3,500 人に達します。



【ふれ合い喫茶】

これまでの
成果や
今後の予定

県民交流広場の活動を生田地区では他の事業も活用して地域の活性化という課題とともに取り組んできました。

施設を借り受けているものの、建物や敷地の維持管理すべてを協議会が責任を持たねばならず、県の助成がなくなった後の施設の維持や活動経費をどうするかが大きな問題になります。

これらを踏まえた上での「そばカフェ生田村」への挑戦でしたが、幸いにも順調な経営状況にあり、県の助成がなくなっても活動を継続できる見込みです。さらなる地域の発展をめざします。

拠点施設



生田村交流ひろば

《主な整備内容：増築》

- 廃園の保育所を改修、多目的室や交流施設を整備
- 環境に配慮し、太陽光発電、薪ストーブを設置
- 備品の整備（エアコン、パソコンなど）

連絡先

生田地域活性協議会
TEL / FAX 0799-70-1478